

*K*itami
*I*nstitute of
*T*echnology
Center for Regional Community

考え

Connect ?

【巻頭言】

地域活性化の中核的拠点を目指して

社会連携推進センター長
(機械工学科 教授)
鈴木 聡一郎



前任の川村彰教授が副学長に就任したことに伴い、六年もの長期間にわたり川村教授が整備・運営し、活動の活性化と実質化に努められてきた社会連携推進センターを引き継ぎ、今年度よりセンター長を拝命いたしました。

折しも、今年度は国立大学法人の第3期中期目標・中期計画期間のスタート年であり、本学は地域活性化の中核的拠点となる大学を目指すことが明確化されました。多くの地方自治体が著しく進行する少子高齢化とそれに起因する様々な問題に直面する中、より多様化する地域ニーズに応じた人材育成や地域産業との連携を図る中核組織として、地域の期待を重く受け止め、重責を担う覚悟で特色ある研究を推進し、個性化による機能強化を図る必要があります。

平成16年の国立大学の法人化に伴い、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の中では、大学の社会貢献機能について「大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献の重要性が強調されるようになってきている」とした上で、こうした社会貢献の役割を大学の「第三の使命」として捉えていくべきだとされています。

およそ12年の歳月が経過した今、地方大学では単に社会貢献の責務を一方的に果たすだけでなく、大学の知的資源を活かした地域社会の拠点としての役割に大きな期待が寄せられるとともに、地方創生の推進の中で、地域社会や地域産業、雇用に貢献する大学づくりが求められています。当センターも、単に大学と地域をつなぐリエゾンとしての役割に止まらず、より積極的に多様化する研究ニーズの情報収集や研究力向上に向けた支援を実施し、研究戦略の策定・推進に貢献するとともに、共同研究、受託研究などの推進、研究者交流や地域との連携協力事業等を通じた地域との連携促進を果たし、本学で創出された研究成果や知的財産を社会に還元し、地域社会の発展に貢献しなくてはならないでしょう。さらには、社会に貢献する人材育成と教育、雇用創出による地方創生の推進支援が今後益々重要になると予想され、当センターを主体としたマネジメント工学を基礎とした教育活動も、より大きな責任を伴うものに発展していくと考えております。

今後とも、皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会連携推進センター一年報目次

【巻頭言】

地域活性化の中核的拠点を目指して 社会連携推進センター長 鈴木 聡一郎

1. 平成 28 年度活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成 28 年度事業計画	1
平成 28 年度事業報告	2

2) 運営組織

スタッフ	5
客員教授	5
産学官連携推進員	6
産学官連携推進協力員	6

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告	9
共同研究件数の推移	10
共同研究受入一覧表	11

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況	18
-------------	----

5) 知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内登録特許件数	26
----------------------	----

6) 地域再生人材育成プログラムの推進

7) 各種会議報告

8) 活動日誌

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

1. 平成 28 年度 活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成 28 年度事業計画

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄附等による事業推進を図る。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進する。

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進する。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案することも考慮した活動を推進する。

これらの実践のため、遊休公設施設を活用した教育・研究拠点の形成を支援する。

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進する。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援する。

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進する。

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進する。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図る。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与する。

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図る。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市商工観光部主催）等のニーズに対応できる体制を構築する。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議（全国）を活用し、センター運営に役立てるものとする。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築する。

7. その他関連する事業

1～6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進する。

平成 28 年度事業報告

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄附金等を通じた事業推進を図った。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進した。

○共同研究 86 件（内訳：道外 35 件、道内 23 件、オホーツク圏 28 件）

○特任教授：大島 俊之（北見工業大学）共同研究代表者 1 件

○共同研究等の推進活動による、研究シーズの普及と地域ニーズの発掘、教育支援

- ・工農教育関係（4 件）、医工連関係（1 件）、地域振興関係（4 件）、ノウハウの開示（1 件）、教育支援（3 件、留辺蘂小、美山小、足寄高校）

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進した。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案することも考慮した活動を推進した。

これらの実践のため、遊休公施設を活用した教育・研究拠点の形成を支援した。

○経産省「産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」自主調査継続中。工農連携研究ユニットとの連携事業

○経産省：「ものづくり・商業・サービス補助金」コーディネート

○農水省：産業クラスター研究会イソップ・コリドール事業推進協議体提案コーディネート

○厚労省：雇用創造協議会「実践型地域雇用創造事業」の提案指導

○国交省（開発局）：連携協定に基づく官学連携活動

○ノーステック財団：事業への協力

○ほくとう総研事業：遊休公施設に関する調査・研究

○旧北見競馬場の活用に係る調査と整備

学長裁量経費関連 4 件、当初計画誘致 2 件、工農事業、市民イベント

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進した。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援を行った。

○学生による地域貢献活動の推進（マネジメント工学コースを中心として）

- ・美山小学校、留辺蘂小学校、市町村イベントにおける科学実験教室等

○地域産業界との教育連携

- ・大学院にて講義（現役社長の講話）

○人材育成事業

- ・北見市「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」4 名修了（社会人 2, 学生 2）、「地域を彩る食物語」（パラボ開催）

○本学「知的財産概論」の授業として開講

- ・広く一般市民にも開放した。

知財関係 吉田 芳春（吉田国際特許事務所 所長 弁理士）

舛井 一仁（芝綜合法律事務所 弁護士）

篁 悟（特許業務法人武和国际特許事務所）

技術関係 小山内 裕（㈱フジクラ 顧問）

土井 三浩（日産自動車㈱ ディレクター）

福地 博行（㈱福地工業 代表取締役）

舟山 秀太郎（㈱舟山組 代表取締役）

地域関係 二俣 正美（社団法人北見工業技術センター運営協会 地域産業プロデューサー）

- 上記以外でも客員教授を多く依頼し、産学連携活動等にご協力をいただいた。
知財関係 各務 茂夫（東京大学教授 産学連携本部イノベーション推進部長）
三井 良一（元 J S T 特許主任調査員）

- セミナー等の開催
 - ・北見市産学官連携推進協議会、起業家育成支援セミナー、(株) エスプール代表取締役 浦上 壮平 (11/15)
- セミナー等の開催協力
 - ・釧路公立大学北海道学生研究会 S C A N 「合同研究発表会」(12/10)参加
 - ・北見市技能普及講演会「フラノマルシェとまち育て-ミッション・パッション・アクション-」(3/1)支援
 - ・北見医工連携研究会「医工連携フォーラム」後援 (3/4)
 - ・北見医師会「オホーツク医学大会」後援 (3/4)
 - ・北見市技能普及講演会「デコ巻きずし講座」(3/13: 藤女子高校)支援

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進した。

- 市町村訪問、オホーツク総合振興局内1回ずつ訪問
- 東京農業大学、帯広畜産大学との人材育成事業3大学合同セミナー(屈斜路研修所: 9/9-10)
- 日赤看護大学、「オホーツク de あそぼうさい2016」へオホーツク地域エネルギー環境教育研究会とともに開催協力(3/12)
- オホーツク産学官融合センター事務局会議にて公設試等と月1回開催、地域コアの併設
- 産業クラスター研究会「麻プロジェクト」、「北見市ふるさとテレワークプロジェクト」、「イソッププロジェクト」へ協力
- 学生定着へ振興局内企業への広報活動により3名の定着に協力
- 韓国江原大学合同シンポジウム(2/2) 東京農大と連携し開催
- 雪氷懇談会への協力
- 北海道中小企業家同友会との連携事業(青年部全道大会を開催、本学・東農大の学生が参加)

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進した。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図った。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与した。

- 産学官交流イベント等出展状況
- センター刊行物の発刊
 - ・センター年報、センターパンフレット
- 各種新聞・雑誌等掲載(北海道新聞等別添による)
- 同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動(相談窓口)

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図った。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(北見市商工観光部主催)等のニーズに対応できる体制を構築した。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議(全国)を活用し、センター運営に役立てるものとした。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築した。

- 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(事務局: 北見市商工観光部)(5/20)

- 北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議の開催（10/27）
- 社会連携推進センター運営会議 月1回（学内）
- 社会連携推進センターミーティング 週1回（学内）
- 専任教員会議（奈良先端科学技術大学院大学）（9/15～16）
- 国立大学共同研究センター長等会議（福井大学）（9/29～30）

7. その他関連する事業

1～6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進した。

- 広報備品・消耗品充実
 - ・印刷物など地域還元の推進
- 地域産業界からの知財相談への対応
- 社会人大学院教育新システム広報

2) 運営組織

◆スタッフ

社会連携推進センター	センター長 機械工学科	(兼任) 教授	鈴木聡一郎
	センター教員	教授	有田 敏彦
	センター教員	准教授	内島 典子
事務局	研究協力課 地域連携担当係長		斉藤 靖子
	事務補佐員		弦巻 香澄

◆客員教授

氏名	現職名	職務内容	期間
小山内 裕	(株)フジクラ 顧問	・技術経営、技術管理、技術者倫理に関する指導、講演等	28.4.1～29.3.31
各務 茂夫	東京大学教授 産学連携本部 イノベーション推進部長	・産学官連携事業に対する指導・助言等	28.4.1～29.3.31
篁 悟	特許業務法人武和国際特許事務所	・知的財産権の管理・運用・技術移転に関する支援等 ・特許等知的財産権に関する講演等	28.4.1～29.3.31
二俣 正美	社団法人北見工業技術センター運営協会 地域産業プロデューサー	・知的財産活動の推進・指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等 ・知的財産論・地域学に関連する講義等	28.4.1～29.3.31
舛井 一仁	芝綜合法律事務所 弁護士 アスタック税理士法人グループ 取締役	・教員研究テーマの特許化と学内知財の国内外へのライセンス可能性探索 ・特許化支援に関する共同研究及び事例解説、手法指導等	28.4.1～29.3.31
吉田 芳春	吉田国際特許事務所 所長	・提案特許の評価・選別、知財戦略等 ・社会貢献へのコミット、手法指導等	28.4.1～29.3.31

氏名	現職名	職務内容	期間
三井 良一	国立大学法人室蘭工業大学 客員教授 元独立行政法人科学技術振興 機構 特許主任調査員	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の知的財産の発掘、権利化、活用及び管理等 ・知的財産活動の推進、指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等 ・知的財産論・地域学に関連する講義等 	28.4.1～29.3.31

◆産学官連携推進員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	百武 勝明
北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	池田 嘉孝

◆産学官連携推進協力員

一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	事業支援課長	進藤 覚弥
公益財団法人オホーツク地域振興機構 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究課研究員	小林 秀彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北見農業試験場研究部長	島田 尚典
北 見 市	商工観光部工業振興課 産学官連携係長	品田 啓一
網 走 市	経済部商工労働課長	田口 徹
紋 別 市	産業部商工労働課長	高橋 秀明
置 戸 町	産業振興課長	高橋 秀典
訓 子 府 町	農林商工課長	遠藤 琢磨
佐 呂 間 町	農務課長	平戸 光宏
津 別 町	産業振興課主幹	近野 幸彦
美 幌 町	経済部商工観光グループ 商工主幹	後藤 秀人
大 空 町	産業課長	佐々木 徳幸
遠 軽 町	経済部商工観光課長	伊藤 雅彦

斜里町	産業部商工観光課長	河井 謙
小清水町	産業課長	久保 弘志
湧別町	企画財政課長	阿部 勉
興部町	産業振興課長	推名 徹
雄武町	産業振興課長	横田 和幸
滝上町	まちづくり推進課 まちづくり推進係主事	川原田 耕基
清里町	総務課参与	本松 昭仁
西興部村	産業建設課長	吉水 一男
北洋銀行北見中央支店	北見中央支店副支店長	船水 信孝
北海道銀行	北見支店副支店長	工藤 新一
北見信用金庫	地域金融支援部地域金融支援課長	松田 剛一
網走信用金庫	地域振興支援部地域振興支援課長	小林 寿明
遠軽信用金庫	営業推進部門統括役	岡崎 和弘
日本政策金融公庫北見支店	国民生活事業融資課長	藤田 久生
日本政策金融公庫旭川支店	中小企業事業融資課長	平井 秀和
帯広畜産大学	地域連携推進センター 人材育成マネージャー	藤倉 雄司
東京農業大学	生物産業学部 地域産業経営学科 准教授	菅原 優
日本赤十字北海道看護大学	看護薬理学領域 教授	根本 昌宏
北海道開発局網走開発建設部	地域振興対策室長	斉藤 敏彦
北海道新聞社北見支社	営業部課長職	村田 孝二
公益財団法人北海道科学技術総合振興センター	研究開発支援部長	工藤 昌史
網走測量設計協会	副会長	内海 和彦

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

経済産業省北海道経済産業局	地域経済部産業技術課 産学官連携推進係長	藤江 稔
オホーツク総合振興局	産業振興部商工労働観光課主査	岡坂 直光
公益財団法人北海道中小企業総合支援センター	オホーツク支部地域支援課長	ト部 貴志

※ 産学官連携推進員・推進協力員、合同会議のオブザーバーについて

地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいています。

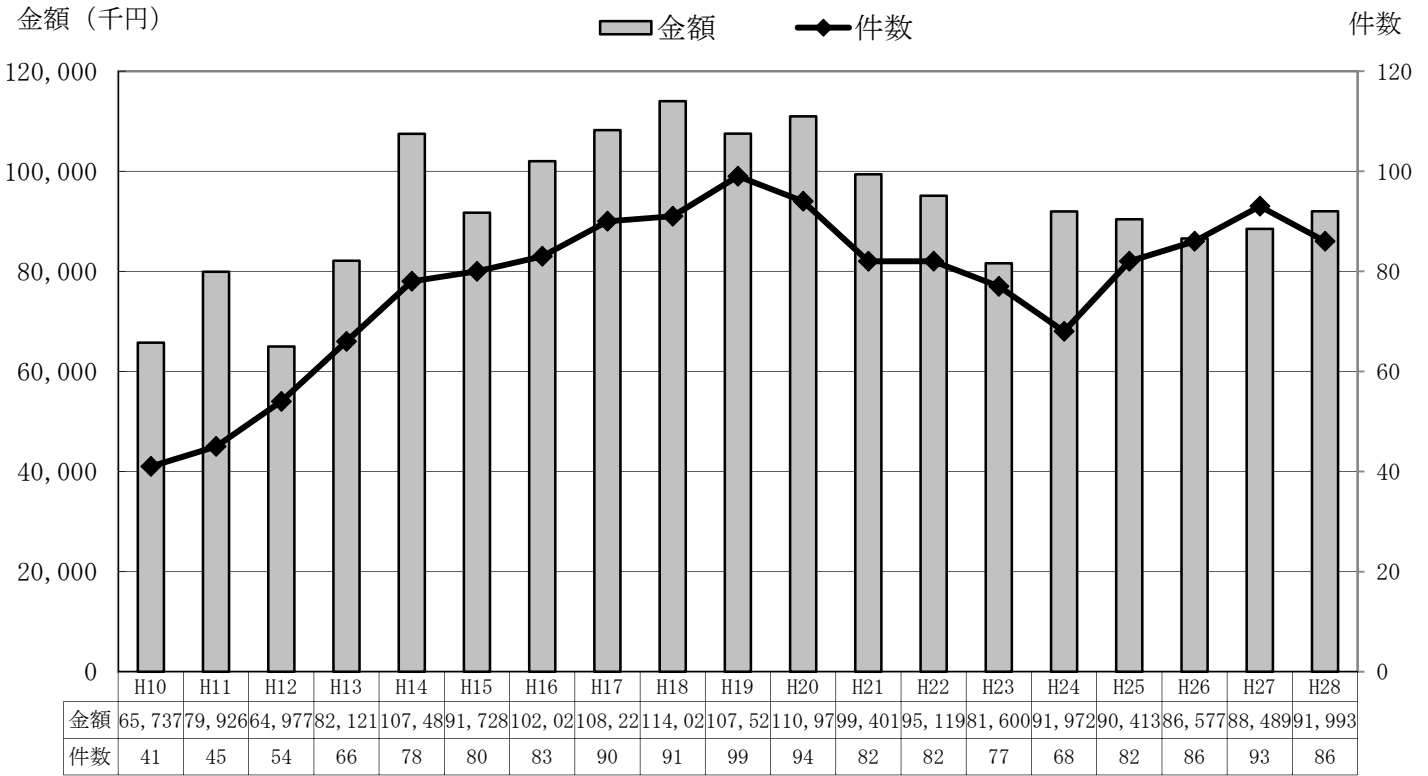
推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

また、推進員・推進協力員合同会議には、北海道内の各行政機関等からオブザーバーとして参加協力をいただいております。

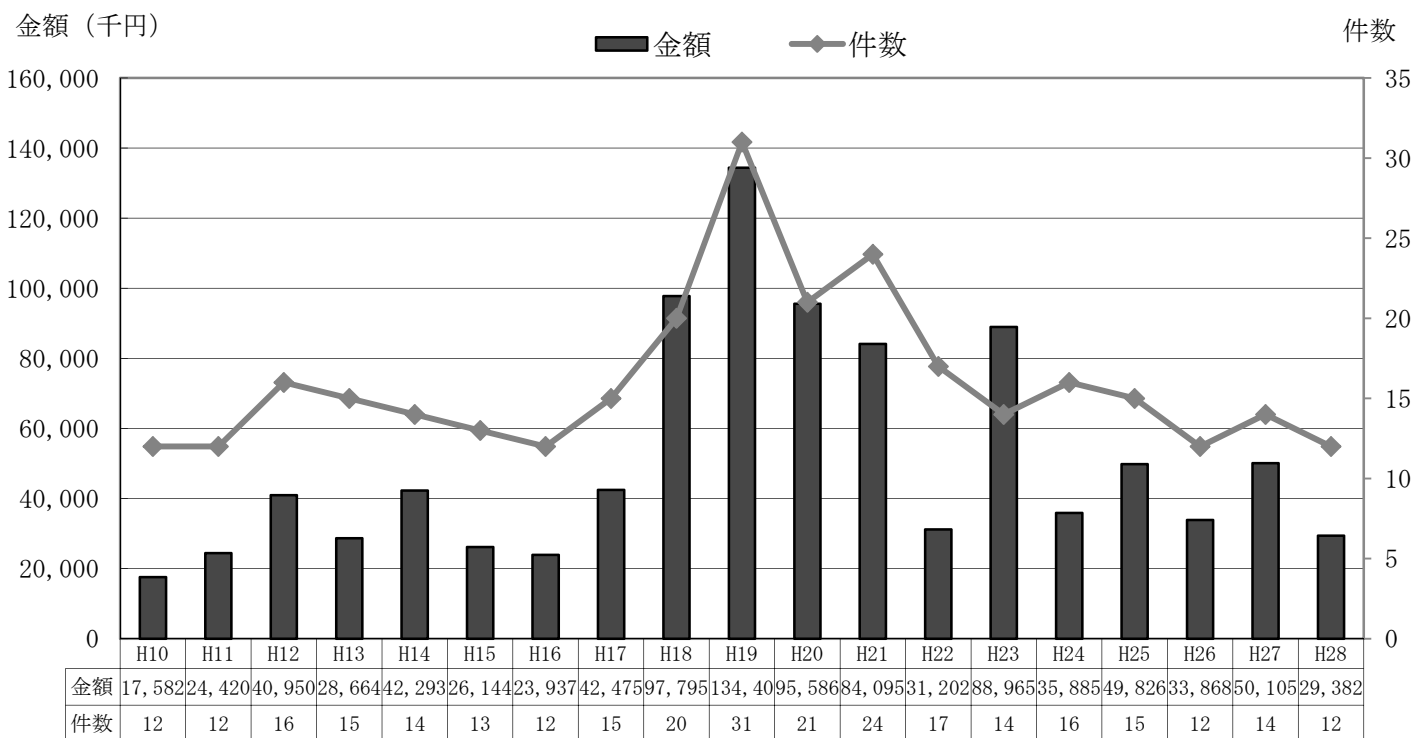
3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告（平成10年度～平成28年度）

共同研究



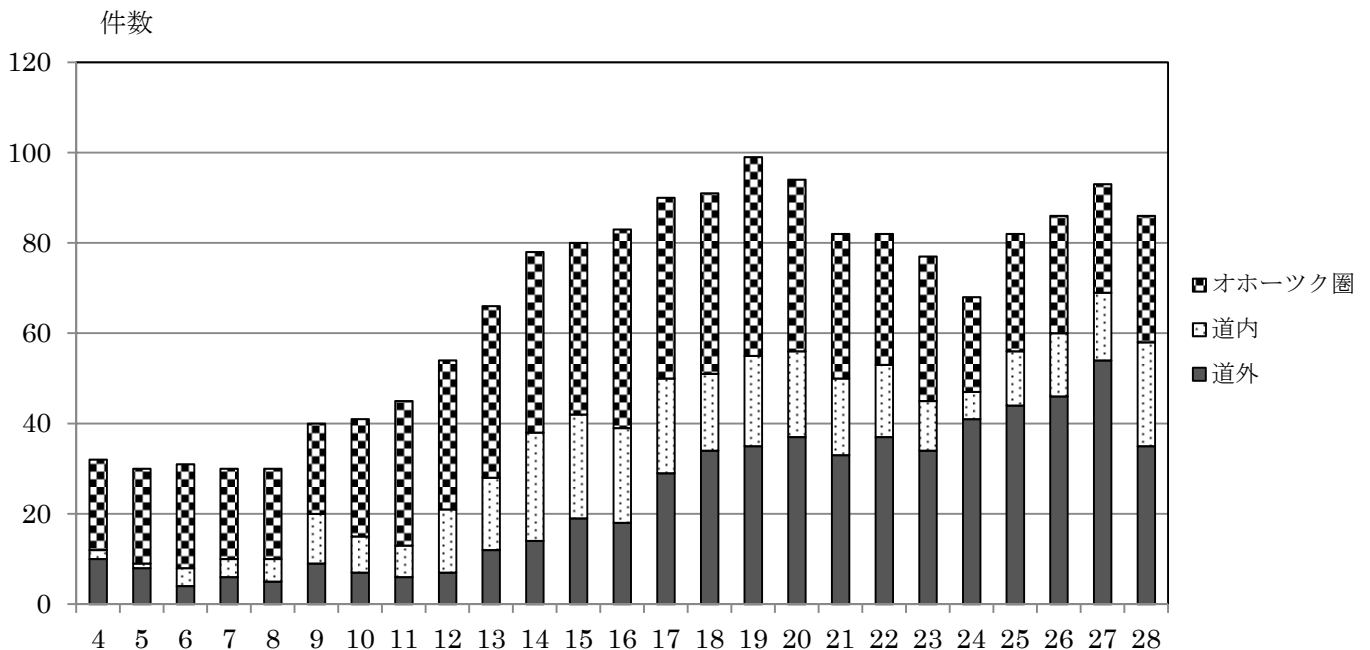
受託研究



北見工業大学 共同研究件数の推移

年度(平成)	道外	道内	オホーツク圏	総件数
4	10	2	20	32
5	8	1	21	30
6	4	4	23	31
7	6	4	20	30
8	5	5	20	30
9	9	11	20	40
10	7	8	26	41
11	6	7	32	45
12	7	14	33	54
13	12	16	38	66
14	14	24	40	78
15	19	23	38	80
16	18	21	44	83
17	29	21	40	90
18	34	17	40	91
19	35	20	44	99
20	37	19	38	94
21	33	17	32	82
22	37	16	29	82
23	34	11	32	77
24	41	6	21	68
25	44	12	26	82
26	46	14	26	86
27	54	15	24	93
28	35	23	28	86

【共同研究】オホーツク圏・道内・道外



平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
1	舘山 一孝	社 会 環 境 工 学 科	准教授	雪氷状態モニタリング技術の開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構/株式会社セ ンテンシア
2	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における切土法面の凍 上対策に関する研究	独立行政法人土木 研究所寒地土木研 究所
3	吉澤 真吾	電 気 電 子 工 学 科	准教授	水中音響通信装置の実証検証	三菱電機特機シス テム株式会社
4	梶井 文人	情報システム 工 学 科	准教授	カーリング競技の戦略シミュレー タに関する研究	株式会社 AIS 北海 道
5	大島 俊之	共同研究推進 セ ン タ ー	特任教授	社会基盤の維持・補修設計に関わ る技術支援制度の実践運用のため の共同研究	網走測量設計協会
6	大津 直史	機 器 分 析 セ ン タ ー	准教授	銀徐放性抗菌材料の開発	エビナ電化工業株 式会社
7	鈴木 聡一郎	機 械 工 学 科	教授	スキーブーツのフットベッド用パ ーツの実用設計に関する研究	ブレイン株式会社
8	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	耐寒促進剤を用いたコンクリート の冬期施工に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所
9	舘山 一孝	社 会 環 境 工 学 科	准教授	路面雪氷センシング技術の高度化 に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所
10	酒井 大輔	電 気 電 子 工 学 科	助教	UVナノインプリントを用いた次 世代光学素子の開発	丸善石油化学株式 会社/国立大学法 人北海道大学
11	曾根 宏靖	情報システム 工 学 科	准教授	ファイバレーザによる超広帯域 光の発生に関する研究	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所/国立大学法人 茨城大学
12	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における凍結深度の推定に 対する地中レーダの有効性につい ての研究	越前屋試錐工業株 式会社
13	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	高速道路における走行快適性に関 する共同研究	株式会社高速道路 総合技術研究所

平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
14	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	帯状ガイドライトの視認性評価に 関する調査研究	株式会社ネク ス・エンジニア リング東北
15	柏 達也	電 気 電 子 工 学 科	教授	市街地における MUSIC 法を用いた 到来波特性の研究	株式会社本田技術 研究所四輪 R&D セ ンター
16	大橋 鉄也	機 械 工 学 科	教授	先端半導体デバイスにおける応 力・転位解析とデバイスシミュレ ーションとの連携解析	学校法人五島育英 会東京都市大学
17	武山 眞弓	電 気 電 子 工 学 科	准教授	気相成長技術による薄膜作製の共 同研究	気相成長株式会社
18	舘山 一孝	社 会 環 境 工 学 科	准教授	着氷モニタリングシステムの研究	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構/国立研究開 発法人土木研究所 寒地土木研究所
19	山田 貴延	機 械 工 学 科	教授	潜熱蓄熱によるローエクセルギー 活用の研究 (小型蓄熱層の研究)	北海道ガス株式会 社技術開発研究所
20	有田 敏彦	社会連携推進 センター	教授	ハイブリッド型看板装置の耐久性 に関する研究	コスモスファクト リー
21	宮森 保紀	社 会 環 境 工 学 科	准教授	低温環境下における免震ゴムの性 能評価試験	住友理工株式会社 化工品技術部
22	川口 貴之	社 会 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における地山補強土工の適 用性	日特建設株式会社
23	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地を対象とした冬期の取 水障害の対策技術の開発	新明和工業株式会 社
24	柴田 浩行	電 気 電 子 工 学 科	教授	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式 会社NTT物性科学 基礎研究所
25	南 尚嗣	マ テ リ ア ル 工 学 科	教授	紋別市における下水汚泥・放流水 中の有害微量成分の定量に関する 長期的研究	紋別市下水道事業
26	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	メタン直接改質技術による活力あ る低炭素地域社会の広域構築	北見市

平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先 氏 名
	氏 名	所 属	職 名		
27	南 尚嗣	マテリアル 工 学 科	教授	網走市能取污水处理施設における 放流水中成分の長期モニタリング 研究	網走市
28	南 尚嗣	マテリアル 工 学 科	教授	網走市における下水汚泥および放 流水中成分の長期モニタリング研 究	網走市
29	浪越 毅	マテリアル 工 学 科	准教授	シクロオレフィン系並びに芳香族 系ビニルエーテルポリマーの研究	日本ゼオン株式会 社
30	早川 博	社 会 環 境 工 学 科	教授	北見市環境調査研究（大気、水質、 騒音・振動、臭気、ダイオキシン 類）	北見市
31	早川 博	社 会 環 境 工 学 科	教授	北見市生物調査研究	北見市
32	早川 博	社 会 環 境 工 学 科	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環 境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
33	新井 博文	バ イ オ 環 境 化 学 科	准教授	常呂産ニンニク及び加工物の抗酸 化活性に関する研究	日本製薬工業株式 会社
34	村田 美樹	マテリアル 工 学 科	教授	美幌町における下水汚泥・放流水 中の微量成分の長期モニタリング に関する研究	美幌町
35	林田 和宏	機 械 工 学 科	准教授	P C V ガス除湿システム基礎研究 その 4	株式会社ワークム 北海道
36	阿部 良夫	マテリアル 工 学 科	教授	エレクトロクロミック材料薄膜の 電気化学的・光学的特性向上	株式会社神戸製鋼 所技術開発本部電 子技術研究所
37	黒河 賢二	電 気 電 子 工 学 科	教授	光ファイバへの入力パワー限界に 関する検討	日本電信電話株式 会社アクセスサー ビスシステム研究 所
38	伊藤 陽司	社 会 環 境 工 学 科	准教授	流体包有物による地下流体の熱履 歴の調査	アースサイエンス 株式会社
39	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	助教	結氷河川におけるアイスジャム被 害に対応する河川管理技術に関す る研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所

平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
40	吉澤 真吾	電 気 電 子 工 学 科	准教授	水中音響通信装置の性能検証	三菱電機特機システム株式会社
41	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社化学品事業部
42	小俣 雅嗣	バ イ オ 環 境 化 学 科	助教	再生可能エネルギーを利用した寒冷地域適応型植物工場に対する、効率的養液使用法の構築	北見市産学官連携推進協議会
43	羽二生 博之	機 械 工 学 科	教授	農地の遠赤外線空撮による暗渠設計と小麦の収穫時期の判定に関する研究	株式会社オーピス
44	駒井 克昭	社 会 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における自然環境保全と維持管理手法に関する研究	株式会社西村組
45	早川 博	社 会 環 境 工 学 科	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
46	羽二生 博之	機 械 工 学 科	教授	遠赤外線空撮による漁港岸壁エプロン等のコンクリート下空洞部検出技術の開発	株式会社豊水設計
47	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	塩害の影響を受ける沿岸域における RC 構造物での防蝕効果を高める金属溶射技術の活用に関する研究	株式会社豊水設計
48	田村 淳二	電 気 電 子 工 学 科	教授	電力系統—機器連成解析技術に関する研究	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部
49	坂上 寛敏	マ テ リ ア ル 工 学 科	助教	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
50	川口 貴之	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市上下水道局
51	小西 正朗	バ イ オ 環 境 化 学 科	准教授	麹菌の液体培養培地成分とプロテアーゼ活性に関する研究	キッコーマン食品株式会社商品開発本部
52	佐藤 勝	電 気 電 子 工 学 科	助教	太陽電池の新たな市場及び用途拡充に向けた革新的研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構

平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
53	林田 和宏	機 械 工 学 科	准教授	バイオディーゼル燃料を用いたディーゼル機関のPM排出特性に関する研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
54	小西 正朗	バ イ オ 環 境 化 学 科	准教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市上下水道局
55	岡崎 文保	バ イ オ 環 境 化 学 科	准教授	北見市事業系食品残さリサイクル調査研究	北見市
56	吉澤 真吾	電 気 電 子 工 学 科	准教授	非公表	非公表
57	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
58	南 尚嗣	マ テ リ ア ル 工 学 科	教授	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市上下水道局
59	坂上 寛敏	マ テ リ ア ル 工 学 科	助教	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
60	坂上 寛敏	マ テ リ ア ル 工 学 科	助教	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
61	松村 昌典	機 械 工 学 科	准教授	住宅用24時間換気システムに関する研究	ケイ・マック株式会社北海道
62	古瀬 裕章	マ テ リ ア ル 工 学 科	助教	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	国立研究開発法人物質・材料研究機構
63	林田 和宏	機 械 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究ー燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着火位置・蒸気濃度など噴霧特性の計測手法	いすゞ自動車株式会社CAEデジタル開発推進部
64	林田 和宏	機 械 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善ー白煙、臭気に関する研究ー	いすゞ自動車株式会社エンジン実験第一部
65	鈴木 聡一郎	冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	株式会社レクザム
66	鈴木 聡一郎	冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	スキーブーツのフットベッドの実用設計に関する研究	ブレイン株式会社

平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
67	渡邊 眞次	マテリアル 工 学 科	教授	香気成分、メントール濃度等 ハ ッカの育種株評価分析方法の確立	株式会社北見ハッ カ研究所
68	渡邊 眞次	マテリアル 工 学 科	教授	ハッカからの香気成分新規抽出方 法の開発	株式会社北見ハッ カ研究所
69	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	温水循環式エアーヒーターを用い たコンクリート給熱養生システム の構築	エクセン株式会社
70	渡邊 康玄	社 会 環 境 工 学 科	教授	河川における土砂の移動特性を考 慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所/愛知工 業大学総合技術研 究所
71	川口 貴之	社 会 環 境 工 学 科	准教授	既存補強土壁の健全度評価に対す る表面波探査の適用	北見土木技術協会
72	武山 眞弓	電 気 電 子 工 学 科	准教授	オホーツク特産品における「北見 ブランド」の確立	北見市/企業組合 北見産学医協働セ ンター
73	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における繊維入りコンクリ ートの剥落防止性能に関する研究	三井住友建設株式 会社北海道支店
74	岡崎 文保	バ イ オ 環 境 化 学 科	准教授	廃プラスチックガス化反応メカニ ズムに関する研究	J F E スチール株 式会社
75	三浦 克宜	情 報 処 理 セ ン タ ー	講師	インターネットにおける多目的 最適化手法を用いた、ITサービス の継続的最適配置に関する共同研 究	S C S K 株式会 社/国立大学法人北 海道大学
76	川村 彰	社 会 環 境 工 学 科	教授	ワイヤレス路面性状測定装置の開 発	株式会社 PROFICT LAB
77	羽二生 博之	機 械 工 学 科	教授	コンクリート下空洞部検出用遠赤 外線カメラの歪み補正と温度表示	株式会社豊水設計
78	川尻 峻三	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地における既設補強土壁 の健全度評価手法の確立に関する 研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土 木研究所
79	早川 博	社 会 環 境 工 学 科	教授	台風被害に伴う緊急水銀調査研究	北見市

平成 28 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
80	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地河川のアイスジャム予測ツールの開発	北海道開発局旭川 開発建設部
81	杉坂 純一郎	電 気 電 子 工 学 科	助教	面発光レーザ向けフォトニッククリスタルについての研究	株式会社東芝生産 技術センター
82	楊 亮亮	機 械 工 学 科	特任助教	準天頂衛星を用いた除雪作業車両の運転支援システムの基礎研究	株式会社ネクス コ・エンジニアリ ング北海道
83	川尻 峻三	社 会 環 境 工 学 科	助教	北海道豪雨災害に関する研究	日本工営株式会社 札幌支店
84	楊 亮亮	機 械 工 学 科	特任助教	広域適用高精度位置情報活用 I C T 基盤要素技術の研究	エヌ・ティ・ティ・ データ・カスタマ サービス株式会社
85	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響の解明に関する研究	北海道ガス株式会 社北見支店
86	橋本 泰成	電 気 電 子 工 学 科	准教授	ブレインマシンインターフェースを用いた快適性定量化に関する研究	北海道ガス株式会 社 技術開発研究 所

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況

No	開催日	イベント名	開催場所
1	6/14(火)-15(水) 7/20(水)-21(木)	自動車技術会(広島)自動車工学基礎講座2016 産学ポスターセッション	広島市 (広島県情報プラザ)
2	7/21(木)	北洋銀行ものづくりテクノフェア2016 http://hokuyo-monotec.jp/report2016/index.html	札幌市 (アクセスサッポロ)
3	7/21(木)	共同研究発掘フェアin北洋銀行ものづくりテクノフェア	札幌市 (アクセスサッポロ)
4	8/25(木)~26(金)	イノベーション・ジャパン2016 http://www.jst.go.jp/tt/fair/ij2016/index.html	東京 (東京ビッグサイト)
5	9/1(木)~2(金)	インフォメーションバザールinTokyo2016	東京 (池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル)
6	10/12(水)~14(金)	Bio Japan2016 https://www.jetro.go.jp/j-messe/tradefair/BJ2016_49414	横浜市 (パシフィコ横浜)
7	10/19(水)~21(金)	自動車技術会(札幌)2016年秋季大会 産学ポスターセッション ~シーズとニーズの出会い~ http://www.jsae.or.jp/2016aki/index.html	札幌市 (札幌コンベンションセンター)
8	10/26(水)~29(土)	メッセナゴヤ2016 http://www.messenagoya.jp/about/last_report/index.html	名古屋市 (ポートメッセなごや)
9	11/10(木)~11(金)	ビジネスEXPO 第30回北海道技術・ビジネス交流会 http://www.business-expo.jp/	札幌市 (アクセスサッポロ)
10	11/11(金)~12(土)	アグリビジネス創出フェアin Hokkaido 2016 http://www.agri-renkei.jp/news/2016/08/05-03.html	札幌市 (サッポロファクトリー)
11	12/14(水)~16(金)	アグリビジネス創出フェア2016 http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/161226.html	東京 (東京ビッグサイト)
12	1/11(水)~16(月)	地域を彩る食物語	北見市 (コミュニティプラザパラボ まちきた大通ビル)
13	1/19(木)	JSTナノテク・材料・物づくり系新技術説明会 https://shingi.jst.go.jp/list/hokudai/2016_hokudai1.html	東京 (JST東京本部別館)
14	1/26(木)	JSTライフサイエンス系新技術説明会 https://shingi.jst.go.jp/list/hokudai/2016_hokudai2.html	東京 (JST東京本部別館)

■イベント名：自動車技術会 自動車工学基礎講座 産学ポスターセッション

■日 時：(前期) 6月14日(木)・15日(水)、(後期) 7月20日(水)・21日(木)

■会 場：広島県情報プラザ(広島県広島市)

6月14日(火)・15日(水)、7月20日(水)・21日(木)の4日間、広島県情報プラザを会場に自動車技術会 自動車工学基礎講座 産学ポスターセッションが開催され、全国15大学の研究室が自動車技術に関する研究成果を発表した。本学からは社会環境工学科 川村彰教授、富山和也助教が取り組む、「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術」について紹介した。前半の日程では富山助教が出展ブースへの来場者に研究内容について説明を行った。講座との併催という事もあり、会場には若手の研究者や学生の来場者が多くみられた。また、自動車産業が盛んな広島での開催でもあることから、自動車事業関係者の参加もあり、本学の研究・技術に多くの関心が寄せられた。



本学の展示ブース

■イベント名：北洋銀行ものづくりテクノフェア2016

■日 時：7月21日(木)

■会 場：アクセスサッポロ(札幌市)

札幌市のアクセスサッポロを会場に「北洋銀行ものづくりテクノフェア2016」が開催された。10回目を迎えた本フェアは北海道内のものづくり産業を振興するために開催され、本学は1回目から共催機関として出展している。出展は過去最多の228社・団体にのぼり、その内大学・高専からの出展は11件だった。来場者数も約4,800人となり、昨年度の来場者数を大きく上回った。本学からは2016年4月に開設された冬季スポーツ科学研究推進センターについて展示・紹介を行った。産学官連携で商品化されたスキーブーツの展示も行い、全国的にも珍しい取り組みを行う同センターに関係者から注目が集まった。



本学ブース(写真左)と開発されたスキーブーツを見る来場者(写真右)

■イベント名：共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016
～北海道を自動走行の実証試験の開発拠点に～

■日 時：7月21日(木)

■会 場：アクセスサッポロ(札幌市)

本フェアは、北海道大学が中心となり道内の学術・研究機関が企業向けに研究内容などを分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくることを目的として「北洋銀行ものづ

くりテクノフェア 2016」と同時開催している。本年度は「北海道を自動走行の実証試験の開発拠点に」をテーマに、自動走行などの自動車安全技術に関する研究シーズを紹介した。本学からは、電気電子工学科 川村武准教授による「暴風雪悪視界下に適応できる UHF 帯 RF-ID システムを用いた車両誘導について」、機械工学科 星野洋平准教授による「レーザ測域センサから取得した地図情報のデータ量圧縮と自己位置推定」、機械工学科 楊亮亮特命助教による「自動運転車両の安全確保における周囲 360 度の人を認識するシステムの開発」の 3 件の研究紹介を行った。それぞれが地域への活用を強く意識した研究の成果であり、新たな地域貢献の実現に向け発展していくことが期待された。



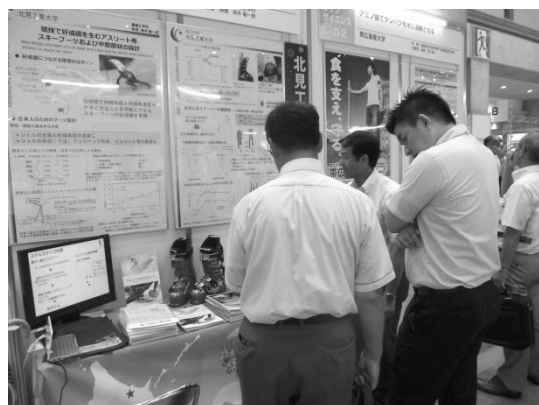
プレゼンテーションを行う川村准教授(写真左)と星野准教授(写真中央)と楊特命助教(写真右)

■イベント名：イノベーションジャパン 2016 大学見本市

■日 時：8月25日(木)・26日(金)

■会 場：東京ビッグサイト(東京都江東区)

本イベントは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントである。13回目を迎えた今回は、500を超える大学とベンチャー企業等が参加し、会場には各種メディアや産業界、官公庁などから2日間でおよそ2万人が訪れた。本学からは、ライフサイエンスゾーンに機械工学科 鈴木聡一郎教授が取り組む「競技で好成績を生むアスリート用スキーブーツおよび中敷部材の設計」、情報通信ゾーンに電気電子工学科 武山眞弓准教授が取り組む「低温でも高機能なコーティング材料の開発」の2つの研究成果について出展を行った。本学のブースには絶え間なく来場者があり、研究者による説明に熱心に耳を傾ける姿が見られた。同2研究はショートプレゼンにも参加し、研究内容について多くの質問や問い合わせが寄せられた。



来場者に説明を行う鈴木教授(写真左)とプレゼンテーションを行う武山准教授(写真右)

■イベント名：北洋銀行・帯広信用金庫 インフォメーションバザール in Tokyo 2016

■日時：9月1日（木）・2日（金）

■会場：池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル（東京都豊島区）

本イベントは北海道の加工食品や農産物等を首都圏に紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路の拡大を目指す実践的な商談会で、商品開発にむけたニーズ収集、首都圏バイヤーとのネットワーク構築などを目的に開催されている。本学は工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の成果発表の場として参加しており、受講生は今後の商品化へと繋がる情報を得るために、自らが開発した試作品（鹿肉ふりかけ、お酒に合うスイーツ、北見丸麦緑茶、白花豆ラスク等）の試食アンケートを行った。本事業の受講生の所属する企業の出展や、応援団として北見市、北見観光協会、商工会議所等の団体も参加し、産学官の連携で地域と地域商品をPRした。本イベントは、受講生にとって自らが開発した商品の販売ルートの開拓や販路の拡大を目指すだけでなく、新たな商品開発に向けた情報共有とネットワーク構築に向けての価値ある場となった。



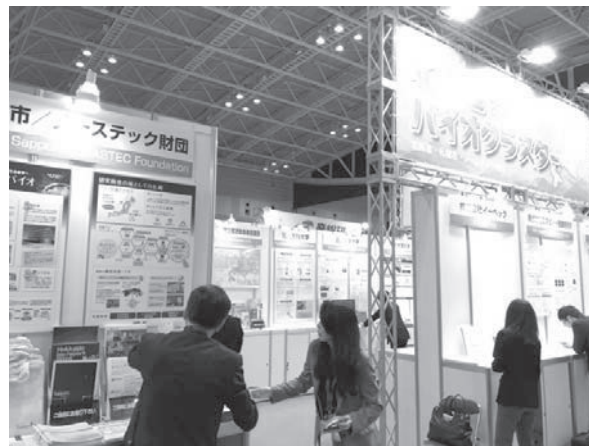
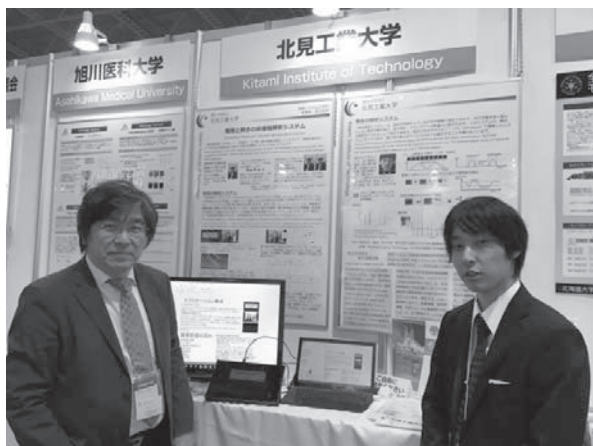
本学の展示ブース

■イベント名：BioJapan2016

■日時：10月12日（水）～14日（金）

■会場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントである。国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加し、同時開催の再生医療Japan2016と併せて来場者は1万5千人にのぼった。北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に本学も出展した。初参加となる今回は、情報システム工学科 早川吉彦准教授の「咀嚼と瞬きの非接触解析システム」について紹介を行った。実際にシステムの体験もできるとあり、特に医療関係者やヘルスケアビジネスの関係者から注目を集めた。来場者の中にはシステムを応用した研究についての質問もあり、今後の共同研究への発展も期待できるものとなった。本学では医工連携をテーマに研究を行っている研究者もおり、バイオメディカル・ヘルスケア技術に関する研究を紹介する貴重な機会となった。



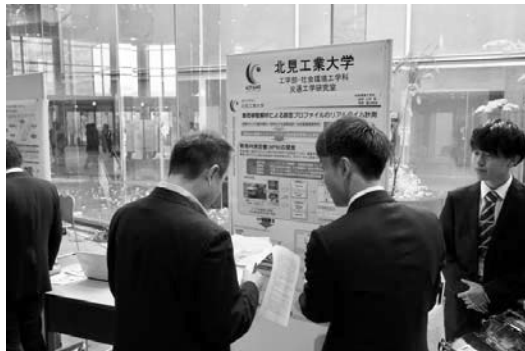
本学ブース前での早川准教授と水上さん(情報システム工学科4年)(写真左)、北海道ブース(写真右)

■イベント名：自動車技術会 2016 年秋季大会 産学ポスターセッション

■日時：10月19日（水）～21日（金）

■会場：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）

本イベントは自動車技術会秋季大会のプログラムのひとつで、自動車技術に関する研究成果について全国から25の大学・高専がポスター発表を行った。本学は、技術広報の一環として昨年度から本ポスターセッションに参加しており、前年度に引き続き社会環境工学科川村彰教授、富山和也助教が取り組む、「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術」について紹介した。会場では研究に取り組む学生2名も参加し、ラジコンカーを用いての計測の実演を行うなど来場者の目を引く展示で研究内容を説明した。他大学や自動車関係の業種の方との情報共有はもちろんのこと、実用化に向けた具体的な話もあがるなど、研究の発展に有意義な機会となった。



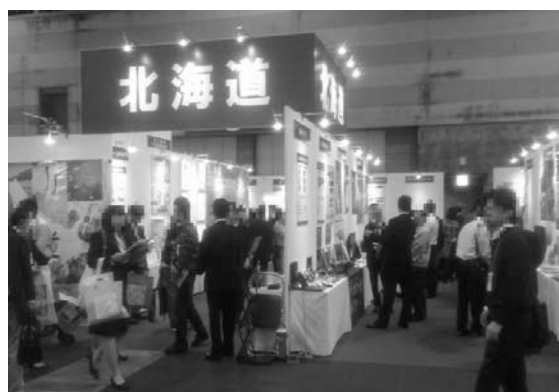
ブースで説明を行う学生の様子

■イベント名：メッセナゴヤ 2016

■日時：10月26日（水）～29日（土）

■会場：ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

本イベントは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会で、1400を超える企業・団体が出展している。北海道では、中京圏市場に対し道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的として北海道ブースを設けており、24の企業・団体と本学を含む4つの大学が出展した。本学は、機械工学科 鈴木聡一郎教授が取り組む「競技で好成績を生むアスリート用スキーブーツおよび中敷部材の設計」と本年度に開設された冬季スポーツ科学研究推進センターについて紹介を行った。用意した資料がすべて配布されるなど、注目の高さがうかがえた。中京圏でのイベント出展の機会はありませんことから、本学を全国にPRする上で重要なイベントとなっている。



本学ブース(写真左)と北海道ブース(写真右)

■イベント名：第30回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）

■日時：11月10日（木）・11日（金）

■会場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催しており、毎年 350 以上の企業・団体が参加する北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントである。本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」において、本年度開設された冬季スポーツ科学研究推進センターについて紹介を行った。会場ではポスターや刊行物の他、共同研究により製品化されたスキーブーツや中敷部材（ステルスティック）の展示も行い、来場者に本学の技術をPRした。本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の先輩達も数多く訪れ、大学と企業のつながりを深めるためにも重要な機会となっている。



本学の展示ブース

■イベント名：2016 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido - 北海道の食と農の明日へ-

■日時：11月11日（金）・12日（土）

■会場：サッポロファクトリー（北海道札幌市）

本フェアは、同年12月に東京で行われる「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけで開催され、食や農業に関する約30の企業・団体が参加した。本学からは社会連携推進センターの有田敏彦教授が参加し、本学が取り組んでいる工農教育事業により開発された商品について紹介した。共同出展した北見市雇用創造協議会は「鹿肉ふりかけ」とお酒に合うスイーツの試食を行い、多くの来場者の関心を集めていた。本学ブースではこれら商品に関するアンケートも行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができた。また、ブースプレゼンテーションでは来場者の投票により本学が優秀賞に選ばれ、工農教育事業についてはもちろんのこと、本学をより知っていただくことができた。



本学の展示ブース(写真左)とブースプレゼンテーション表彰式の様子(写真左)

■イベント名：アグリビジネス創出フェア 2016

■日時：12月14日（水）～16日（金）

■会場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本フェアは全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、研究機関間や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催している。本学は平成19年度より継続して出展している。本年度は、機械工学科 星野洋平准教授の「ブームスプレーヤ（農薬散布等に用いられる機械）の高速化・作業効率向上のためのアタッチメント式高性能除振装置」と「工農教育事業」について展示・紹介を行った。農業・バイオ関係の展示内容

が多い中、本学は工業大学の立場からの出展であることから、他大学・研究機関の他に食品、繊維、環境など幅広い分野の関心が高かった。最終日には星野准教授によるプレゼンテーションも行われ、来場者は熱心に耳を傾けていた。出展後には、研究に関する問い合わせもあり、研究の発展が期待できる内容となった。本イベントへの参加は、工学や化学を用いて農林水産業の支援・発展に貢献できることを知っていただく貴重な場となった。



本学ブース(写真左)とプレゼンテーションを行う星野准教授(写真右)

■イベント名：地域を彩る食物語 ～大学からの発信 こだわりのあるおいしいもの!!～

■日時：1月11日(水)～16日(月)

■会場：コミュニティプラザパラボまちきた大通ビル(北海道北見市)

本イベントは北見市産学官連携推進協議会の主催、本学の共催で、例年北見市で行われる高知物産展と同時開催されている。7回目となる今回は長崎大学、東京農業大学、帯広畜産大学と本学の4大学とオホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加し、研究成果発表や開発商品の試食、ブースプレゼンテーションを行った。初日には長崎大学水産学部の菅准教授と東京農業大学生物生産学部の菅原准教授による講演会と情報交換会が行われ、大学間の交流を深める場となった。また、パネル展示として、上記の4大学の他に鹿児島大学、高知大学、愛媛大学、豊橋技術科学大学が研究紹介を行った。本学は農業地帯にある工業大学という利点を活かし取り組んでいる、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工農教育事業の成果を報告した。本イベントは、全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを地域の多くの方々に理解していただき、また参加大学・機関にとっても、「食と健康」・「人材育成」をキーワードとする地域興しの意識を広く共有し、それぞれの活動を発展させるための有益な機会となった。



本学の工農事業教育受講生によるプレゼンテーション(写真左)と販売会(写真右)の様子

■イベント名：JST 新技術説明会

■日 時：1月19日（木）、26日（木）

■会 場：JST 東京本部別館（東京都千代田区）

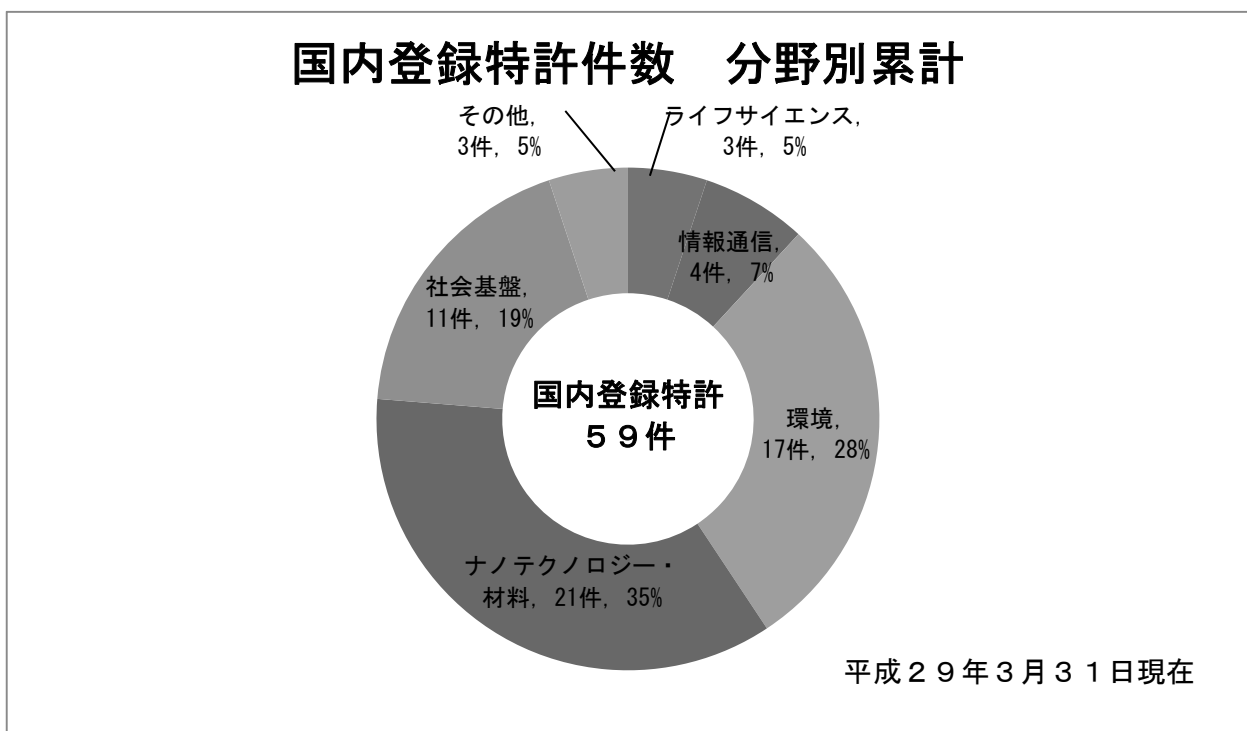
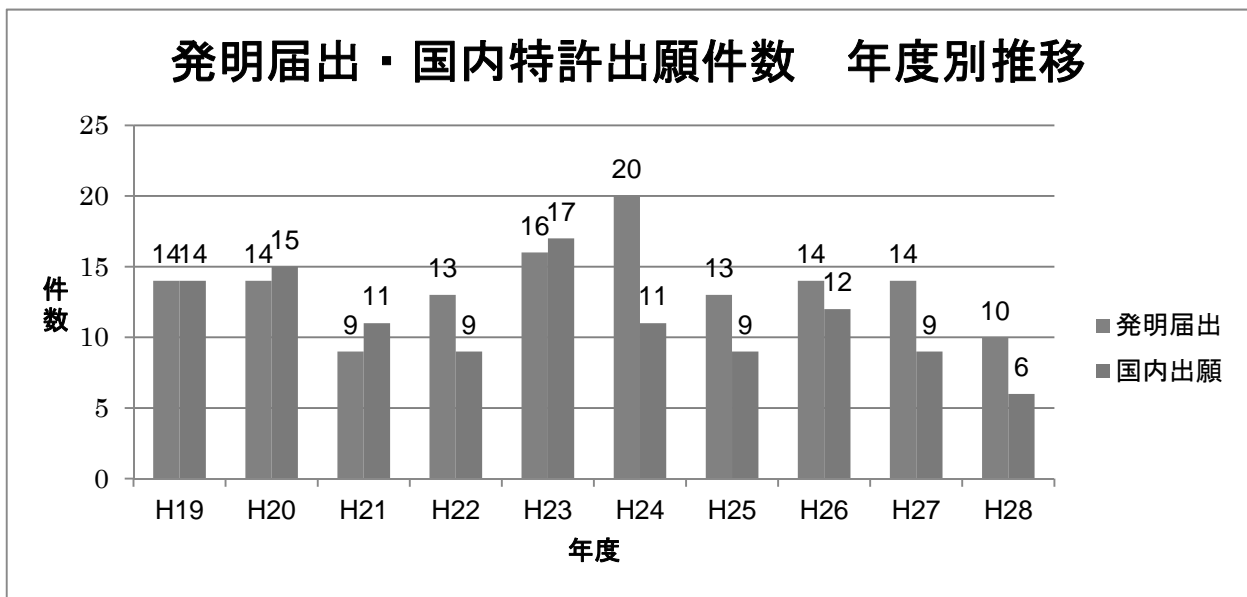
本説明会は、新技術や産学連携に関心のある企業関係者に向け、大学や公的研究機関等の研究者が研究成果について説明し、実用化に向けて広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る目的で開催されている。JST（科学技術振興機構）と北海道大学 産学・地域協働推進機構が主催し、本学も後援機関として参画している。「ナノテク・材料・物づくり系」がテーマの1月19日の説明会には、マテリアル工学科 大野智也准教授が参加し、「ナノ粒子表面への複合酸化物材料のナノコーティング技術」と題して研究の成果を説明した。「ライフサイエンス系」がテーマの1月26日の説明会には、バイオ環境化学科 小西正朗准教授が「新規酢酸耐性菌を用いたリグノセルロース系バイオマスからのエタノール生産」と題し研究の成果を説明した。両日とも、プレゼンテーションの後には研究の成果に興味を持つ企業の方々との個別相談が行われ、さらに深い技術や共同研究の可能性等について話し合いが行われた。新技術説明会は、発表者の研究力向上に繋がる貴重なネットワーク形成の機会であり、また今後の研究・産学官連携の発展に向けた有意義な広報・情報交換の機会にもなっている。



プレゼンテーションを行う大野准教授(写真左)と小西准教授(写真右)

5) 知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度から研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究より上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また、近年、国内出願数が 10 件程度であるが、基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせている。国内登録特許件数は、所有する知的財産の評価・見直しを行い、わずかに減少したが、例年とほぼ同じ件数を保っている。その技術分野は、ライフサイエンスをはじめ、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料など広範に及んでいる。



6) 地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」第11期の実施

【(旧)新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン】

平成18年度より5年間続けてきました「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」は、平成23年度においては北見市の協力により「産学官連携第6次産業人材育成事業」として、平成24年度はオホーツク総合振興局「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業」により継続することができ、平成25年度においては北見市の協力により「地域資源付加価値向上6次産業人材育成事業」として実施できました。また、これまで同様国立大学法人がこの種の事業に直接採択いただけないため、北見工業大学発ベンチャー企業である企業組合北見産学医協働センターが事業採択を受け、大学の人材育成を連携して運営するという形式で進めました。また、平成26年度からは北見市雇用創造協議会との連携の中で運営してきている。

(1) 開発課題概要

① “お酒に合うスイーツ”を目指した商品開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めている地元素材の活用を目指した商品開発の一環として、地元産小麦、塩などを活用した塩ドーナツの商品化を行った。働く女性をターゲットとし、近年大手コーヒーショップメーカー等でも販売しているワインなどに合わせたスイーツの開発・商品化を行った。

② ハッカを用いた新商品の開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題。かつて世界の7割のシェアを誇った北見産ハッカを新たな形で商品化を目指した。地元でハッカ油を使用しているお菓子を製造しているメーカーとの共同開発によるクッキーの開発を行った。

③ エゾシカを活用した新商品の開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題。近年利用促進が課題となっているエゾシカ肉を活用した商品開発を検討した。地場産タマネギ等を配合したふりかけタイプと、さらに高級感のある甘露煮タイプの商品開発を行った。

④ 北見産食材の機能性に関する研究(学生)

北見市常呂町で栽培されているニンニク抽出エキスの抗酸化作用についての研究を行った。常呂町ではピンク種ニンニクの生産が行われ、愛知県より誘致した企業がこのニンニクを活用した商品化を行っている。ニンニクには多様な機能性が知られているが、本研究ではニンニク抽出物に動脈硬化を予防する可能性があることが示され、商品への付加価値化が期待できる。

⑤ 北見産農産物を活用した機能性食品の開発(学生)

地域資源の有効活用による6次産業化を目指した取り組みを支援する目的で、北見産農産物と食用担子菌(キノコ類)を利用した機能性食品開発研究を行った。例として、ハッカ油を採取する際に出る水蒸気蒸留残渣はたい肥などに用いられているが、残渣に含まれる成分を活用した食品開発の手掛かりとなる研究を行った。

(2) 地域の販売イベント等

①インフォメーションバザール in Tokyo 2016 (東京都)

日 時：平成 28 年 9 月 1 日 (木) 10:00~17:00

平成 28 年 9 月 2 日 (金) 10:00~16:00

会 場：池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル 4 階

主 催：北洋銀行、帯広信用金庫

東京都で開催された「インフォメーションバザール in Tokyo 2016」へ参加した。本イベントは、「南の逸品商談会 in Tokyo 2016」と同時開催されたものであり、北海道及び南九州地域の食品を首都圏に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会であった。本イベントでは、受講生 2 名が地域食品加工（特にオホーツク地域）に関するアンケートを行った。

本事業の過去の受講生の開発商品の PR なども行われており、修了生が継続して商品開発などに携わっていることで、本事業の有用性を確認できた。

②輝農祭～農業の活気を取り戻そう～ (大空町)

日 時：平成 28 年 10 月 16 日 (日) 10:00~15:00

会 場：道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」

主 催：輝農祭実行委員会

大空町で開催された「輝農祭」へ参加した。本イベントは、今年で 12 回目であり、有機農業を通して、食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

地元の小学生が育てたかぼちゃの販売、料理実習、近隣地域からの出店、地元小・中・高校生のステージや北見工業大学学生による、おもしろ科学実験の体験などのイベントが催された。

本イベントにおいても、受講生 1 名が販売実習を行った。

③食べる大切フェスティバル (北見市)

日 時：平成 28 年 10 月 1 日 (土) 10:00~15:00

会 場：サンドーム北見

主 催：コープ札幌

未来を作る子ども達への『食育』の場として、体験教育プログラムの内容やメニューを更に充実させ、「体験」と「学び」を通して「食べることの大切さ（食育）」を実感できるフェスティバルに育てることを目的に開催されました。雇用創造協議会メンバー 2 名が参加しました。

④アグリビジネス創出フェア in Hokkaido (札幌市)

日 時：平成 28 年 11 月 11 日 (金) ~12 日 (土) 10:00~17:00

会 場：サッポロファクトリー

主 催：NPO 法人グリーンテクノバンク、農林水産省

本イベントは、“北海道の食と農の明日へ”と題し、北海道地域の農業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進、起業化・事業家チャンスの発掘とビジネス・ネットワークの拡大を図るとともに、産業の技術開発と新技術の普及の大切さを市民に伝えることを目的としている。

農業、食品分野の技術交流展示、ステージプレゼンテーションなど一般の方にも開かれた展示会である。本イベントへは、受講生 2 名の試作品（鹿肉のふりかけ、ミントリーフクッキー）ならびにこれまでの商品展示紹介、広くたくさんの方に認知していただけるよう紹介を行った。現在進めている開発商品へ利用可能な技術の知得とビジネス・ネットワークの拡大に努めた。

⑤アグリビジネス創出フェア2016（東京都）

日 時：平成 28 年 12 月 14 日（水）～16 日（金）10：00～17：00

会 場：東京ビッグサイト

主 催：農林水産省

東京都で開催されている「アグリビジネス創出フェア 2016」に参加した。本イベントは、産学官の各機関が、農林水産・食に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新たなビジネスの芽を創出する事を目的として毎年開催されている。

ブースでは大学におけるバイオ関連研究内容の説明、人材育成事業についての情報提供などを行い、来場者との交流を図った。

本イベントには、来場者に商品PRを行うとともに、商品についての意見、要望等を伺った。展示品については試食をしなかったため、バイヤーに製品を配り受講生に内容を知らせた。また、展示内容について情報交換を行い、各出品者に内容をフィードバックした。

⑥地域を彩る食物語 ～大学からの発信 こだわりのあるおいしいもの!!～

日 時：平成 28 年 1 月 13 日（水）～18 日（月）9：00～18：00（最終日は 17：00 まで）

会 場：コミュニティプラザパラボ地下 1 階

主 催：北見市産学官連携推進協議会

共 催：北見工業大学

各地域の大学が実施している食農人材養成事業の成果品等を発表するとともに、食農人材養成事業について市民の皆様へ周知することを目的として北見工業大学が共催しているイベントである。

人材育成事業内容の発表、受講生の成果報告、事業の中で開発した商品や大学の技術を利用して製品化した商品を紹介し、“食と健康”、“人材育成”をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し向上させることを目的としている。

本年度で7回目を迎えるイベントで、会場の都合もあり地下1階を会場としたイベントとなった。残念ながら地下での人の入りが悪く次年度の検討課題となった。また、北見市の姉妹都市である高知市の産品、観光をPRする高知物産と同日程で開催した。



開会式(北見市産学官連携推進協議会会長挨拶)



来賓挨拶（北見市商工観光部長）



会場の様子



講演会の様子

(3) 講演会等

①北見工業大学・帯広畜産大学・東京農業大学 3大学合同セミナーin 弟子屈

「野村北海道菜園(株)の施設見学とSWOT分析」

日 時：平成28年9月9日(金) 15:30~19:30

平成27年9月10日(土) 9:00~16:15

会 場：北見工業大学屈斜路研修所

北見工業大学、東京農業大学、帯広畜産大学「地域再生人材創出拠点の形成」事業採択3大学の人材育成事業の受講生・修了生が新たな知識習得やプレゼンテーションスキルのスキルアップを図り、情報交換を通じて大学間や受講生・修了生同士の交流を深めることを目的として開催された。

②講演会『フラノマルシェとまち育て』

「ミッション・パッション・アクション」

日 時：平成29年3月1日(水) 15:00~16:30

会 場：北見市民会館 小ホール

主 催：北見市技能普及実行委員会

講 師：西本 伸顕(ふらのまちづくり株式会社 代表取締役社長)

本講演は、北海道で実績を上げている「フラノマルシェ」の取り組みを、観光と食に関係する諸団体および大学関係者の皆様を中心に集まっておいただき、オホーツク圏の観光を含め「食」を中心とした産業振興へのきっかけづくりとした。

③北見市技能普及講演会「デコ巻きずし講演会」

日 時：平成28年3月13日(月) 14:00~

会 場：北見藤女子高等学校 調理室

主 催：北見市技能普及実行委員会

講 師：木村光江 bambic.バンビック代表、日本デコ巻きずし協会北海道支部代表

本講演会は地元で特色ある食関連商品開発に意欲的に取り組む北見藤女子高等学校の新商品の開発や技術普及などに係る考え方やアイデアの出し方等についての講演会を実施し、20名程度参加いただき開催した。また、将来の職業人教育、産業人養成を促進し、あわせて地場産品の高付加価値化による取り組みの強化を図るとともに、これをきっかけに改めて当地域の食材のおいしさを知り「食」の技能の普及と推進により、地域活性化を図る目的で開催された講演会であった。

(4) 今後について

本事業を通して各地で6次産業化の動きが活発化しており、本事業の本質である「第一次産業の工業化」に向けて徐々に地域の思いのベクトルがそろいつつある事を再確認できました。産学官連携による産業振興では、人材育成を行いつつ地域特性を生かした商品作りを試み、販促活動、市場調査を進めることが、かなり有効な手段と全国的に理解されてきていますので、今後さらなる強固な協力体制により継続できるよう努力していきます。

7) 各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	第1回社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議	
開催状況	日 時	平成28年10月27日(木) 13:30~16:40
	審議事項	1 第一次産業への工学活用と地域連携
	報告事項	1 出席者からの情報提供

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会 平成28年度総会	
開催状況	日 時	平成28年5月20日(金) 14:30~16:10
	審議事項	1 報告第1号 平成27年度事業報告
		2 報告第2号 平成27年度決算報告
		3 報告第3号 平成27年度監査報告
		4 議案第1号 平成28年度事業計画(案)
		5 議案第2号 平成28年度予算(案)
		6 その他

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会	
開催状況	日 時	平成28年4月26日(火) 10:00~11:30
	審議事項	1 報告第1号 平成27年度事業報告について
		2 報告第2号 平成27年度決算報告について
		3 報告第3号 平成27年度監査報告について
		4 議案第1号 平成28年度事業計画(案)について
		5 議案第2号 平成28年度予算(案)について
		6 役員改選について
		7 その他

◇社会連携推進センター運営会議

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年4月27日(水) 13:00~14:35
	審議事項	1 平成27年度決算、及び平成28年度予算について
		2 社会連携推進センター推進協議会平成28年度総会について
		3 社会連携推進センターメールアドレスについて
		4 その他
	報告事項	1 平成27年度外部資金受入状況について
		2 平成28年度第2回教育研究評議会について
		3 社会連携推進センター活動報告について
4 その他		

会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年5月13日(金) 9:00~10:10
	審議事項	1 平成28年度社会連携推進センター推進協議会総会について
		2 工農教育について
		3 その他
報告事項	1 ばんば場について	

会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年6月7日(火) 9:00~10:55
	審議事項	1 平成28年度市町村訪問について
	報告事項	1 平成28年度第3回教育研究評議会について
		2 その他

会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年7月6日(水) 13:00~15:10
	審議事項	1 平成28年度市町村訪問について
		2 イベント出展時の出展者決めについて
	報告事項	1 テクノランドについて
		2 平成28年度第4回教育研究評議会について
		3 その他

会議名称	第5回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年8月8日(月) 13:00~14:10
	審議事項	1 平成27年度年報について
		2 ビジネス EXPO 出展について
		3 平成28年度学生用図書を選定について
	報告事項	1 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016について
		2 平成28年度第5回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第6回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年9月8日(木) 13:00~15:00
	審議事項	1 (仮称)テクノランドについて
		2 市町村訪問について
		3 産学官連携推進員・協力員合同会議について
		4 その他
	報告事項	1 イベント出展報告
		2 CRC ホームページの追加更新について
3 その他		

会議名称	第7回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年10月13日(木) 13:00~14:50
	審議事項	1 社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議について
	報告事項	1 第29回国立大学法人共同センター等専任教員会議について
		2 第28回国立大学法人共同研究センター長等会議について
		3 市町村訪問について
		4 平成28年度第6回教育研究評議会について

会議名称	第8回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年11月7日(月) 15:30～17:20
	審議事項	1 CRC 産学官連携推進員・協力員合同会議における今後の取組みについて
		2 社会連携推進センター次年度以降計画の検討開始について
		3 その他
	報告事項	1 「旧北見競馬場を利用した科学塾」について
2 平成28年度第7回教育研究評議会について		

会議名称	第9回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成28年12月6日(火) 13:00～15:00
	審議事項	1 社会連携推進センター次年度以降計画の検討について
		2 陸別町社会連携連絡協議会について
		3 「地域を彩る食物語」について
		4 その他
	報告事項	1 各種イベントについて
		2 平成28年度第8回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第10回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年1月10日(火) 13:00～14:40
	審議事項	1 北見市旧競馬場について
		2 地域を彩る食物語について
		3 「産学官連携ポリシー」について
		4 江原大学との日韓シンポジウムについて
	報告事項	1 各種イベントについて
		2 平成28年度第9回教育研究評議会について
3 その他		

会議名称	第11回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年2月9日(木) 13:00~14:50
	報告事項	1 各種イベント等について
		2 平成28年度第10回教育研究評議会について
		3 その他

会議名称	第12回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成29年3月14日(火) 10:00~12:00
	審議事項	1 平成29年度CRCの利用について
		2 CRC対応の技術広報について
		3 社会連携推進センター推進協議会予算について
		4 実験室201の整理について
		5 その他
	報告事項	1 各種イベント等について
		2 平成28年度第11回教育研究評議会について
3 その他		

8) 平成 28 年度 活動日誌

凡 例

○	学 内
◆	学 外

- 4 / 7 (木) ○北海道ガス株式会社との包括連携協定調印式
- 4 / 26 (火) ◆北見市産学官連携推進協議会平成 28 年度総会
- 4 / 27 (水) ○平成 28 年度第 1 回社会連携推進センター運営会議
- 5 / 12 (木) ○北海道ガス株式会社との包括連携協定連絡会議
- 5 / 13 (金) ○平成 28 年度第 2 回社会連携推進センター運営会議
- 5 / 20 (金) ○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会
- 5 / 24 (火) ◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 5 / 25 (水) ◆平成 28 年度北見地域企業立地促進協議会総会
- 6 / 7 (火) ○平成 28 年度第 3 回社会連携推進センター運営会議
- 6 / 8 (水) ◆産業クラスター研究会オホーツク平成 28 年度定期総会
- 6 / 9 (木) ◆北見市雇用創造協議会総会
- 6 / 10 (金) ◆北見商工会議所 外部評価委員会
◆北見市技能普及実行委員会
- 6 / 12 (日) ◆「先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム」第 1 回事後評価作業部会(東京都)
- 6 / 14 (木) ◆自動車工学基礎講座 産学ポスターセッション(前期)(広島県)
- 6 / 16 (木) ◆産学連携学会第 14 回大会【浜松大会】(静岡県)
- 6 / 22 (水) ○平成 28 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式
- 7 / 2 (土) ◆留辺蘂小学校科学教室
- 7 / 6 (水) ○平成 28 年度第 4 回社会連携推進センター運営会議
- 7 / 10 (日) ◆NHK 学生ロボコン 2016(東京都)
- 7 / 12 (火) ◆平成 28 年度北見高等技術専門学院職業能力開発運営協議会
- 7 / 13 (水) ◆平成 28 年度第 1 回北海道北見柏陽高等学校学校評議員会
- 7 / 15 (金) ◆第 63 回北見ぼんち祭り 舞踊パレード
- 7 / 20 (水) ◆自動車工学基礎講座 産学ポスターセッション(後期)(広島県)
- 7 / 21 (木) ◆北洋銀行ものづくりテクノフェア 2016(札幌市)
◆共同研究発掘フェア～北海道を自動走行の実証試験の開発拠点に～(札幌市)
- 8 / 1 (月) ◆第 1 回北見市行財政改革委員会
- 8 / 8 (月) ○平成 28 年度第 5 回社会連携推進センター運営会議
- 8 / 25 (木) ◆イノベーション・ジャパン 2016 ー大学見本市ー(東京都)
- 8 / 30 (火) ◆第 2 回北見市行財政改革委員会
- 9 / 1 (木) ◆北洋銀行・帯広信用金庫インフォメーションバザール in Tokyo 2016(東京都)
- 9 / 8 (木) ○平成 28 年度第 6 回社会連携推進センター運営会議
- 9 / 9 (金) ◆道東三大学合同セミナーin 弟子屈(弟子屈町)
- 9 / 12 (月) ◆「先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム」第 2 回事後評価作業部会(東京都)
- 9 / 15 (木) ◆第 29 回国立大学法人共同研究センター等専任教員会議(奈良県)

- 9 / 21 (水) ◆「食に関するミニ補助事業」審査委員会
- 9 / 26 (月) ◆市町村訪問(滝上町、西興部村)
- 9 / 27 (火) ◆市町村訪問(佐呂間町、湧別町、遠軽町)
- 9 / 29 (木) ◆第 28 回国立大学法人共同研究センター長等会議(福井県)
- 10 / 3 (月) ◆市町村訪問(小清水町、清里町、斜里町、網走市、美幌町)
- 10 / 5 (水) ◆第 3 回北見市行財政改革委員会
- 10 / 6 (木) ◆市町村訪問(雄武町、興部町、紋別市)
- 10 / 7 (金) ◆市町村訪問(置戸町、訓子府町、津別町、大空町)
- 10 / 12 (水) ◆BioJapan2016(神奈川県)
- 10 / 13 (木) ○平成 28 年度第 7 回社会連携推進センター運営会議
- 10 / 19 (水) ◆自動車技術会 2016 年秋季大会 産学ポスターセッション(札幌市)
- 10 / 24 (月) ◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 10 / 26 (水) ◆メッセナゴヤ 2016(愛知県)
- 10 / 27 (木) ◆平成 28 年国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 11 / 7 (月) ○平成 28 年度第 8 回社会連携推進センター運営会議
- 11 / 9 (水) ◆北海道北見柏陽高等学校理事会
- 11 / 10 (木) ◆第 30 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)(札幌市)
- 11 / 11 (金) ◆2016 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido(札幌市)
- 11 / 18 (金) ◆第 5 回北見市行財政改革委員会
- 11 / 25 (金) ◆北見市行財政改革委員会答申
- 11 / 29 (火) ◆産学連携学会関西中四国支部 第 8 回研究・事例発表会(鳥取県)
- 12 / 6 (火) ○平成 28 年度第 9 回社会連携推進センター運営会議
- 12 / 14 (水) ◆アグリビジネス創出フェア 2016(東京都)
- 1 / 10 (火) ○平成 28 年度第 10 回社会連携推進センター運営会議
- 1 / 11 (水) ◆地域を彩る食物語 ～大学からの発信 こだわりのあるおいしいもの!!～
- 1 / 19 (木) ◆JST 新技術説明会「ナノテク・材料・物づくり系」(東京都)
- 1 / 26 (木) ◆JST 新技術説明会「ライフサイエンス系」(東京都)
- 2 / 2 (木) ○第 8 回北見工業大学・江原大学校・東京農業大学ジョイントシンポジウム
- 2 / 8 (水) ◆平成 28 年度大学-JST 意見交換会(大阪府)
- 2 / 9 (木) ○平成 28 年度第 11 回社会連携推進センター運営会議
- 2 / 10 (金) ◆陸別町産学連携会議(陸別町)
- 2 / 13 (月) ◆本格的な産学官共同研究をすすめるための地域フォーラム(札幌市)
- 2 / 14 (火) ◆北見地域企業立地促進協議会
- 3 / 1 (水) ◆フラノマルシェとまち育て
- 3 / 4 (土) ◆第 10 回オホーツク医学大会
- 3 / 14 (火) ○平成 28 年度第 12 回社会連携推進センター運営会議
○平成 28 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業修了式

2. 付録

- ・ センター関連規程**
- ・ 技術相談申込書**

■ 社会連携推進センター関連の規程 ■

1. 北見工業大学社会連携推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学研究推進機構規程
5. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員要項
6. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進協力員内規

規程の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

<http://www.kitami-it.ac.jp/>

平成 年 月 日

所属：

役職：

氏名：

住所：〒

TEL：

FAX：

技術相談申込書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2
国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター

TEL：0157-26-4161

FAX：0157-26-4171

E-mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター年報第15号 平成28年度

発行日 平成29年9月

発行者 国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

TEL : 0157-26-4161

FAX : 0157-26-4171

E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

URL : <http://www.crc.kitami-it.ac.jp/>



国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進機構 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町 603-2 TEL : 0157-26-4161 FAX : 0157-26-4171 E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp